科目ナンバリング	U-LAS54 10011 LJ44						
授業科目名<英訳>	証券投資と企業活動 Securities Investment and Corporate Activities			担当者所属職名・氏名	経営管理大学院 客員教授 川北　英隆 経営管理大学院 特定准教授 脇屋　勝		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	その他キャリア形成		使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	木2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

上場企業の活動はもちろんのこと、起業においても金融は必須である。その金融の中心は、現在では株式や債券などの証券形態に移ってきている。一方、証券への投資は企業経営から多くのメリット（果実）を享受している。これらの状況や経済的背景について、多少深掘りした講義を実施する。同時に、金融全般が経済活動に対して果たしてきた役割、その世界的な関係性の高まり等への理解も深める。以上の学びを、将来の社会人生活において積極的に活用してもらうことを講義の目的とする。

講義の1～5回目まででは、証券や金融市場に関する概説であり、証券投資の最低限の知識と、それが企業経営にいかに裏打ちされているのかを説明する。6～10回目では企業経営に着目している投資家から、証券投資の本質を語ってもらうと同時に、各論として有力企業の経営者に登壇してもらい、経営と投資家との関係を話してもらう。11～12回目では金融制度・政策の枠組みや役割を政策担当者・経験者から話してもらう。13～14回目ではデジタル技術を活用した新しい金融や投資の動向を紹介してもらう。

[到達目標]

金融と証券投資に関して、必要最小限よりも少し高いレベルの知識習得を目指す。同時に与えられた課題をこなすことで、近い将来、社会人としてスタートする場合の、たとえば就職先企業を金融の観点から評価できる能力を築く。加えて、企業経営者の講義に基づき、社会人として幅広く活躍するための実践的な基礎を修得する。

[授業計画と内容]

1回目
ガイダンス
2回目
経済活動および企業活動と金融証券市場の相互の密接な関係の概説
3回目
企業活動に必要な資金調達手段としての株式と社債・借入の特徴と差異
4回目
資金調達に必要な本来的コストと企業価値の関係、株式や社債価格との関係
5回目
株式や社債などの市場（発行市場、流通市場）および市場関係者の概説
6回目
本来の株式投資に関して、長期投資の第一人者から語ってもらう
7回目
有力企業（その1）の経営者に企業経営と資金調達を語ってもらう
8回目
有力企業（その2）の経営者に企業経営と資金調達を語ってもらう
9回目

証券投資と企業活動(2)へ続く↓↓↓

証券投資と企業活動(2)

　有力企業もしくはベンチャー企業の経営者に企業経営と資金調達を語ってもらう
10回目
　証券投資における企業と投資家との情報の交換、ルール（金融庁に依頼予定）
11回目
　日本銀行は金融証券市場に対してどのような働きかけをしてきたのか
12回目
　金融技術と情報処理技術の発展との相互関係について（実例-1）
13回目
　金融技術と情報処理技術の発展との相互関係について（実例-2）
14回目
　情報を駆使した証券投資の一例としてのヘッジファンドの実例
15回目
　全体のまとめとフィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート提出：60/100
授業参加・貢献度（授業内容への質問・発言等）：40/100

[教科書]

各講師の講義に関して講義ノート、資料等を配布する

[参考書等]

　（参考書）
川北英隆編著 『「市場」ではなく「企業」を買う株式投資【増補版】』（金融財政事情研究会、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

LMS上に掲載する予習用の教材や資料を事前に読了すること（各講義の1週間前を目処に掲載。掲載時はKulasisにて通知する）。
授業中の討議のために事前の質問を受け付ける。これが授業への貢献点となる。講義後に指定したレポートを提出のこと（履修登録者にGoogle FormへのリンクをKulasisから送付予定）。

[その他（オフィスアワー等）]

別途指定する

[実務経験のある教員による授業]

①分類
オムニバス形式で多様な企業等から講師・ゲストスピーカー等を招いた授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容

③実務経験を活かした実践的な授業の内容

証券投資と企業活動(3)へ続く↓↓↓

証券投資と企業活動(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]